

1 調査結果の分析

平成25年度学力向上を図るための調査の結果を基に観点別に分析した結果と各学年の実態を以下に記す。

<関心・意欲・態度>

児童の関心・意欲・態度は全般的に高い。

<話すこと・聞くこと>

聞き取るべき内容を自分で判断し、話の中心となる必要な情報についてメモを取りながら聞く問題で、先生の説明の細かい部分を正確に聞き取れていない。

<書くこと>

文章の敬体と常体との違いに注意して書いたり、相手や目的に応じて自分の考えを明確に伝えたり構成を考えたりする力がやや弱い。

<読むこと>

物語の場面の様子を、叙述をもとに正確に読み取る力が弱い。また、叙述の工夫や中心人物の心情も読み取れていない子が半数近くいる。

<言語についての知識・理解>

7割程度の正解率だったのは「屋上」を正確に書く問題と、ふさわしい接続語を選ぶ問題である。特に正解率が低かったのが、指示語が指し示すものを的確にとらえることができるかを見る問題で、9割以上が不正解だった。

<取り出す力、読み取る力、解決する力>

筆者の投げかけた問いを取り出すことはできるが、二つの資料の内容を比較・関連付けて読み取ることや筆者の意図を理解、解釈する力が不十分である。

2 授業改善の方策

<話す・聞く>話の中心だけでなく、細部まで正確に聞く注意力を養う。**そのために、ゲーム的な要素を取り入れたスキル学習を適宜行う。**

<書くこと>伝える相手によって、内容を選択したり、効果的な表現を考えたりする学習を行う。

そのために、立場の違ういろいろな相手に伝える文章を書く機会を設ける。

<読むこと>文学的な文章を読むときは叙述から場面の様子をイメージすることを大事に指導すると同時に表現の工夫を理解できるように丁寧に指導する。**そのために、短い文章からイメージさせたり、優れた表現を紹介したりする機会を増やす。** 説明的な文章では、要点、文章構成、要旨を捉える学習から文章全体を再構築する力を養う。**そのために、「読み取りのコツ」や「読み解きナビ」を活用し、中学年からは、文章の再構築を意識したまとめの仕方を多く取り入れる。**

<言語の知識・理解>普段から辞書を活用する機会を多く設ける。語彙量を増やす言葉の学習を意識的に行う。**そのために、取り立てて言葉の学習の時間を設ける。主語と述語の対応、修飾語と被修飾語の関係、指示語に指示内容を入れる等の学習。言葉遊びなどで、語彙を増やす機会を設ける。**

3 活用につながる指導

- 文章を読み解く方法を身に付けさせるために、「読み取りのコツ」を示し、短い文章を使い、児童自身が自力で文章を正確に読み取れるようにする。
- 国語の基礎的な文法の指導を取りたてて行う。特に主語と述語の対応、修飾語と被修飾語の関係、指示語に指示内容を入れる等の学習は繰り返し行う。**